

別紙標準様式（第7条関係）

会 議 録

会議の名称	令和5年度第6回枚方市支援教育充実審議会	
開催日時	令和6年1月30日（火）	15時00分から17時00分まで
開催場所	枚方市教育文化センター多目的室	
出席者	会長 相澤 雅文（京都教育大学） 委員 内田 順子（枚方市立小学校支援教育コーディネーター） 委員 小出 伶奈（枚方市立小学校保護者） 委員 栂山 佐由里（枚方市立中学校長会） 委員 井村 恵美（市民） 委員 廣井 理恵（枚方市立中学校保護者）	
オンライン出席者	委員 野口 晃菜（一般社団法人UNIVA） 委員 渡邊 かおり（大阪弁護士会 萩の木法律事務所） 委員 柏木 充（市立ひらかた病院） 委員 牧村 剛（枚方市PTA協議会） 委員 小寺 鐵也（種智院大学）	
欠席者	副会長 山下 敦子（神戸常盤大学） 委員 武田 正道（枚方市立小学校長会） 委員 奥出 久実（大阪心理カウンセリングセンター） 委員 東野 恵子（枚方市立中学校支援教育コーディネーター）	
案 件 名	（1）アンケート調査について （2）日本におけるインクルーシブ教育について②	
提出された資料等の名称	資料1-1 児童生徒向けアンケート（案） 資料1-2 保護者向けアンケート（案） 資料1-3 教員向けアンケート（案） 資料2 日本におけるインクルーシブ教育について－現状と課題及び枚方市への提案－（一般社団法人UNIVA理事博士（障害科学）野口晃菜委員） 参考資料1 個別の教育支援計画（枚方版様式） 参考資料2 個別の教育支援計画（枚方版記入の手引き） 参考資料3 個別の教育支援計画（枚方版記入例） 参考資料4 個別の指導計画（1）	

	参考資料5 個別の指導計画（2） 参考資料6 個別の指導計画（3）
決 定 事 項	
会議の公開、非公開の別 及び非公開の理由	公開
会議録の公表、非公表の別及び非公表の理由	公開
傍聴者の数	5人
所管部署 (事務局)	学校教育部 児童生徒支援課

審 議 内 容

<開会>

(会長) それでは、事務局から、本日の委員の出席状況と傍聴者について報告をお願いいたします。

(事務局) 失礼いたします。本日の委員の出席状況ですが、委員 15 名中 11 名の御出席をいただいておりますので、枚方市附属機関条例第 5 条第 2 項に基づき、本会議は成立していることを報告いたします。また、本日の傍聴者は 5 名でございます。お願いいたします。

(会長) ありがとうございます。前は野口委員より日本におけるインクルーシブ教育についてと題して、改めてインクルーシブ教育とはということについてお話をいただく中で、共通理解を図りながら今後の枚方市の支援教育について議論をしてみました。

議論の中では、枚方市の課題や現状を踏まえて、支援学級の在り方、重複障害の児童生徒のアセスメントや適切な学びの場について、また子どもの納得のある在籍や将来的な退級を見通した児童生徒の合意形成と支援・指導について議論されました。

その中での一部の発言につきまして、梶山委員より訂正と説明があるというようなことでございます。それでは梶山委員、お願いいたします。

(梶山委員) 失礼いたします。前回の本審議会での私の発言につきまして、一言皆様に申し上げます。

支援学級の種別と学級設置につきまして、私の発言の中で皆様に誤解を生じさせる部分がありました。障害種別ごとの人数と設置学級数に関する部分につきまして、また、重複障害につきまして具体的な人数を挙げて設置学級数に言及いたしましたが、本来の障害種別と違うクラスに生徒を在籍させ、学級数を確保しようとしているかのように受け取られかねない表現がございまして、実際にそのように受け止められた方がいらっしゃるかもしれません。

しかし、これは障害種別によって学級の人数に偏りが出ること、また生徒によっては障害が重複しているため厳密に障害種別によってクラスを分けることが難しいということを用意して発言したものでございます。特に、知的障害と自閉症・情緒障害の重複については、どちらが主たる障害であるかを判断することが難しいことがございまして、そのアセスメントについて私の知識不足や理解不足から今回の発言につながってしまいました。

実際には学校として、普段の学校での様子や必要に応じて専門家や医療機関とも連携し、きちんとアセスメントを行い、障害についての理解をし、教育委員会も交えて学級設置の協議を行っております。先ほども申し上げましたように、判断に迷う部分もありますが、その場合は専門家や専門機関、市教育委員会からも御助言をいただき、生徒のアセスメントを基に障害種別を踏まえた学級への在籍をしていただいております。それを基に府教委

の確認も受けた上で学級設置を進めております。

私の言葉足らずな発言で皆様に誤解を生じさせてしまったことを心からお詫び申し上げますとともに、ここに改めて発言の意図について御説明をさせていただきました。すみません、お時間を取らせてしまって申し訳ございません。以上でございます。

(会長) ありがとうございます。椋山委員から詳しく御説明いただいたかと思えますけれども、この件について何か御質問とかございますか。よろしいでしょうか。

それでは、本日の予定としましては、まず、前回アンケート調査についてお話しいただくお時間が取れなかったので、目的、手法を含めた内容について意見を伺ってまいりたいというふうに思っております。

次に、前回、野口委員の資料について議論できなかった部分について、少し踏み込んで議論ができればというふうに考えておりますが、よろしいでしょうか。オンラインの皆様もよろしいでしょうか。

それでは、まず案件1ということでアンケート調査についてということです。

前回、アンケート調査の枠組みとして資料をお配りしましたが、こちらについて委員の方から御意見を伺い整理したものを事務局にも作成していただいておりますが、その前に、小出委員それから廣井委員、井村委員からの意見もいただいておりますので、そちらについてまずお話をといたしますか、御説明をしていただけたらというふうに思っておりますが、よろしいですか。

(小出委員) 資料にコピーしていただいているものがあります。まず、昨日の朝にまた別の意見として市教委の方にメールで送らせていただきましたが、今手元にあるものは1週間ほど前の時点で考えたものになるので、今とは少し変わっています。私の思いとしては、こちら教員用のアンケートの部分を考えていましたが、教員の先生の現場で困っていることだったり相談できる人はいますかとか、やっぱり余裕がないと支援も充実することが難しいと思ったので、そういうことに視点を当てたいと思いました。

昨日送らせていただいたのは支援学級の勤務年数、支援学級と通級に担任したのは何年ですかという質問で0年、1年、2年から5年、6年から10年、11年以上というのと、あと別の質問で考えたのは通常の学級で配慮が必要な子ども(支援学級や通級に入っていない子も含む)に対して、自身が大切にして取り組んでいることや課題や思いなどを自由記述で聞きたいなと思いました。通常の学級での合理的配慮だったり、そういうことも含めた内容を自由記述で聞きたいなと思ったこと、他の質問で支援学級や通級など支援教育に対しての意見を幅広く先生方にお聞きしたいなと思って自由記述のことを考えていました。私の考えたものでご意見があればお聞きしたいのでお願いします。

(会長) ありがとうございます。資料を御提出いただいている委員の方一通りお話を伺ってからというふうに思いますので、続いて廣井委員、お願いしたいと思っておりますがよろしいですか。

(廣井委員) 私は児童向けと保護者さん向けのアンケート内容を少し考えてみたのですが、そもそもアンケートを取る意図というのをはっきりさせないと中身がすごく曖昧なものになり、結局何を聞きたいのか分からなくなってしまうだろうなというのを思いました。

では、アンケートを取る目的は何だろうと私なりに考えましたが、それはこの間の審議会で野口委員から専門的な見地からお話をしてくださった提案がいろいろあったと思いますが、その内容が市民のニーズに合っているのかどうかというところを調査する必要があるのではないかと思います。こちらで色々これがいい、あれがいいということ話し合っても、結局それが市民の人が求めているものだとか全く意味がないと思ったので、今、市民の皆さんがどういうことに不満があるのかとか満足していることもきっとあると思うんです。情報を具体的に聞くことで残していったほうがいいところや改善したい所や良い所というのが明確になるのではないかと思います項目を考えました。

前回、野口委員がご提案されていたモデル校の設置などそういうことを仰って下さっていたと思いますが、そのためにニーズが引き出せるような項目がいたると思いました。

あと、ここにも書いてありますが、実施時期もできれば新しい体制が整うのに時間がかかるので、今年度中にできたほうがいいかなというの思いました。

あと、対象についてなんですけど、新1年生の人も聞くというのが入ってたんですけど、それを御本人が答えるのはなかなか難しいと思いますし、1、2年生も難しいと思うので、幼稚園の子にはもっと難しいと思うので、保護者の方が答えないといけないんじゃないかなというの思います。あとは実際にまだ入っていなかったら質問の内容も全く同じと訳にはいかないと思ったので、また個別に作らないといけないんじゃないかなというの感じました。

あとアンケートの対象の分け方が、もともと低学年と中学年とあと小学校の5年生から中学3年生みたいな感じになっていましたが、小学校と中学校では中身が全然違いますし、学力向上に重点がある中学校は体制も全然違うので、小学校と中学校は分けたほうがいいのかというの個人的に感じました。

何種類も作るとなかなか集計が大変かもしれないですが、そのあたりはちょっと対象年齢もしっかり議論が必要かなというふうに感じました。

あと、アンケートの案について、聞き方としては例えば、学校が楽しいとかどう感じてるかという質問もちろん必要なんですけども、しんどいこととかがあったとしたら何がしんどいのか、授業がしんどいのかとか給食の時間が嫌だとか、運動会とかそういう行事が嫌なのかとか、そういう細かい項目も作って選択で選んでもらえるようにすれば、子どもがどんなところがしんどいと感じているのか、どこを改善していったらいいのかというのが実際の現場の先生にも分かりやすくなるんじゃないかなと思って、そういった項目をできる限り具体的な項目でアンケートを作る必要があるんじゃないかなと思っています。

それとあと、登校している子と登校できていない子によってもまた感じ方が違うと思うので、行っているか行っていないかみたいな項目も必要かなと。行きたいけど行きしづつ

ているのか、あと全く行けない状態になってるのかとかいうのによっても学校に対してのイメージが違おうと思います。その辺も細かく項目分けが必要かなというふうに感じています。

あと、保護者のアンケートに関しては、実際に漠然とした不満がきつとあったりするとは思いますが、それが何に原因するのかというところを言語化するのは非常に難しいとっていて、何か先生とうまくいかないんですということを具体的な項目であれば選びやすいかなと思ひまして、例えば話す機会が少ないだとか、注意される言い方がとか何か分からないうですけど、何か具体的な項目があればこれだなというようものが選びやすいと思ひまして、より児童とか保護者の方とかが思っている感情を捉えやすいんじゃないかなと思ひています。ですので、当てはまるとかよく当てはまるとかあまり当てはまらないとか、そういうふわっとした回答書くだけだとなかなか本当のニーズというのが分からないのかなというふうに感じましたので、そのような案を作りました。

目的どおりにアンケートを作って、大体こういう結果が出るんじゃないかという仮定のもとに作らないとふわっとした内容になってしまうと思ひますので、そのあたりをもうちょっと突っ込んで議論ができたらいいのではないかと思ひています。以上です。

(会長) ありがとうございます。井村委員はまだいらっしゃっていないですので後ほどお願いします。

いただいたのを私も一通り目を通させていただいてアンケートの目的というところ、それから今回は保護者と教員とそれから児童生徒全員を対象にしているというところなので、少し私も案と一緒に作ってみたのですが、事務局と少し検討しながらというところですが事務局より今回提出されているアンケートの案について御説明をしていただけたらと思ひます。

(事務局) 委員の方々は、これまでの意見で御質問は大丈夫でしょうか。

(会長) ありがとうございます。今、御説明いただいたことについて御質問とかございましたら、お願いしたいと思ひますがいかがでしょうか。オンラインの皆様もどうですか。よろしいですか。

それではまず、全部出し尽くしてからお話を伺うというほうがよろしいかもしれませんので、それでは事務局から御説明をお願いしたいと思ひます。

(事務局) 失礼いたします。資料1-1を御覧ください。こちらは児童生徒向けのアンケートとなっております。内容については3年生でも分かる程度の内容というところで想定して作成いたしております。低学年については保護者と一緒に回答していただくことを想定して作成させていただきました。

まず、対象学年は小学校1年生から中学校3年生。次に、性別についての回答がございます。記名については本市としては記名制を想定しておりましたが、様々な御意見がある

ことを受け、審議会にて御意見を伺えたらと思っております。

続いてアンケートの内容についてです。児童は支援学級という認識を持っていないことや各学校で様々な名称で運営されていることを想定されておりますので、学校生活全般についての内容というふうな形にしております。

Q 1. 学校に通うことを楽しいと感じていますか。

Q 2. 安心して学校に通えていますか。

Q 3. 学校の授業が分かりやすいと感じていますか。

Q 4. 学校で困ったとき、相談できる人が学校にいると感じていますか。

Q 5. 学校で心配なことがあったとき、相談できる人が学校にいると感じていますか。

Q 6. 学校の先生は話しやすいと感じていますか。

Q 7. 学校は自分のことを理解して対応してくれていると感じていますか。

自由記述として学校生活についてこうなればいいなと思っていることがあれば教えてくださいというふうにしています。

続いて資料1—2を御覧ください。こちらは保護者向けアンケートとなっております。まず、小学校と中学校にお子様がおられる場合については、2校分の回答を想定しております。

次に、お子様の在籍学級について。こちらは通常の学級、通級指導教室の利用の有無、支援学級としています。

質問についてです。Q 1から7については、児童生徒と同じ項目にしており、認識の差について調査できればと考えております。以降は支援教育の観点からの質問となっております。

Q 8. 学校は家庭に「ともに学び・ともに育つ」教育についての取組や方向性を分かりやすく伝えてありますか。

問 9. 学校は、教員とスクールカウンセラーなど多様な職種で、「チーム学校」としてのサポートを行うことについて努力していると思いませんか。

問 10. 学校は、通級指導教室の役割やあり方について説明していますか。

問 11. 学校は支援学級の役割やあり方について説明していますか。

問 12. 「合理的配慮」ということについて理解されていますか。

問 13. 「合理的配慮」を申請するときの学校の窓口について理解されていますか。

問 14. 「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」ということについて理解されていますか。

問 15. 枚方市立の学校で行われている「ダブルカウント」ということについて理解されていますか。

自由記述として、「ともに学び、ともに育つ」教育、または、「支援教育」に関する御意見を自由にお書きくださいとしております。

続いて資料1—3を御覧ください。こちらは教員向けアンケートとなっております。まず、自身が担当している学年や所属について質問しています。

問 1から6については、児童生徒と同じ項目にしており、認識の差について調査でき

ばと考えています。以降の内容については教員を対象としていますが、主語を学校はとすることで個人を追求することのないよう配慮した聞き方としております。

問7. 学校は、子どもたちをよく理解し、一人一人に応じた学習や生活を進めていると感じていますか。

問8. 学校は、家庭に「ともに学び・ともに育つ」教育についての取組や方向性を分かりやすく伝えていると思いますか。

問9. 学校は、教員とスクールカウンセラーなど多様な職種で、「チーム学校」としてのサポートを行うことについて努力していると思いますか。

問10. 学校は、通級指導教室の役割やあり方について説明していると思いますか。

問11. 学校は支援学級の役割やあり方について説明していると思いますか。

問12. 学校は、「合理的配慮」について保護者に説明していると思いますか。

問13. 学校は保護者から児童の「合理的配慮」の申請を受けたとき、組織的に対応していると感じていますか。

問14. 学校は、「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」について適切に活用していると感じますか。

自由記述として、「ともに学び、ともに育つ教育」、または「支援教育」を充実させるためにできることについて、御自身の経験や御意見を自由にお書きくださいとしています。以上です。

(会長) ありがとうございます。今、委員の方からの御説明、それから枚方市支援教育充実審議会としての児童生徒向け、それから保護者向け、教員向けというようなところでの案を御紹介いたしました。

本審議会の方は、同じような内容を含むことによって児童生徒と保護者と教員の意識の違いというようなところ、それから今回は全員を対象としてというふうなことで伺っておりますので、特に保護者とそれから教員については、後半はいわゆる支援教育の在り方についてのインクルーシブな社会をつくっていく上ではお互いに様々な理解をしていくといったようなことが必要ではないかと思いましたので、共通した項目の中でのずれであるとか、私どもとしても充実していくためにはどんなところに力を注いでいけばいいのかといったようなものが少し見える化できるとよいかというところでした。

それでは、少しアンケートのことについてお話し合いを進めていきたいというふうに思っています。まずは時期ですね。時期が廣井委員からのお話の中でも、本年度中にこのアンケートを取ることがよいのではないかとということで話がありましたけれども、時期について本年度中という意見ですが、いかがでしょうか。オンラインの方も御意見があれば。

(小出委員) 今の学年で一区切りにして聞いたほうがいいのかと思うので、3月中がいいかなと個人的には思いましたが、中学校の先生とかだと卒業もありますし受験もまだありますし、締切りというか、卒業してしまってもういない。オンラインなので可能だとは思

いますが、そのあたりが学校現場の先生方にお聞きしたいです。

(椋山委員) 正直、年度内というのは学校的には厳しいかなというのは思います。特に今言っていたように、3年生はもう受験の時期を迎えておまして、3月13日が卒業式ですので、それまでに時間が取れるかなということを心配しています。

ほかにもいろいろなアンケートが学校には依頼がありまして、なかなか時間が取れない、授業時間というよりは終礼の時間であるとか、あとは家でやってきてねというふうにお願いをすると今度は回答率がかなり低くなるかもしれないという心配もありますので、できるだけしっかり取りたいと思うときには、子どもたちが学校にいるときに一斉にやりたいなとは思いますが、時間的には厳しい部分は正直あります。あとはちょっと工夫をして何とか時間をつくってあげればいいかなとは思いますが。

(小出委員) すみません。先生方は、可能そうでしょうか。

(椋山委員) 何とかなるかな。一つやらないといけないことが増えることについては、もう時期的なことを含めても同じかなと思いますので、春休みなども使ってということであれば不可能ではないと思います。

(小出委員) ありがとうございます。小学校の先生はどうでしょうか。

(内田委員) 先ほど話がありましたが、アンケートをすることは可能です。今年度中ということですよ。いつ、これが出来上がるのかというか、例えば2月の中旬に出来上がるのであれば、丸1か月回答期間がある。でもその出来上がりが3月初めだったりしたときに、3月30日までが回答期限、その回収をどこまで求めるかにもよりますが、多分私はアンケート出来上がりの時期にかかっているんじゃないかなと思います。

(会長) もう今日はまとめていきたいと思っています。内容についても。御意見いただいて。

(内田委員) 今日、アンケートが出来上がるという感じですか。

(会長) ほぼ作って、それで最終形について委員の皆様にお返しをして、最終意見いただいてというような形で、2月の初めぐらいには作りたいなというふうに思っているところでございます。もう1月末ですけどね。

(内田委員) 2月初めに完成して即配信ということですよ。2月上旬で、一応今のところ回答期限が3月30日とか31日とかその辺ということですよ。

(会長) 異動される方もいらっしゃるかと思いますので、3月の中旬から終わりぐらいまでというふうなところで。僕の経験からは、時間長くしてもアンケートはあまり集まらないので、大体2週間程度であるとか、配付してから2週間程度でお願いしますというようなことが意識の中に残っていると思っているので、それも今日の話合いですけれども、まず時期というところが今年度中というようなことについてはどうでしょうか。よろしいですか。対象というところで中学校3年生は難しいということであれば、そこは中学校3年生ではなくて2年生までというようなことも可能かというふうには思いますけれども。

(椋山委員) 中学校3年生を外していただければ、随分違うと思います。

(会長) 受験等で忙しいということもあれば、中学校2年生までというふうなところでよろしいですかね。対象になってしまいますけど、小学校1年生から中学校2年生までという。1年生と2年生は保護者の方と一緒にというふうな形で御回答をいただくというようなことを想定しているというふうなところですがいかがでしょうか。

(小出委員) 中学校3年生の場合は、受験もあるので無理しないでくださいという形で配付だけはするというのもやっぱり混乱を招くのでやめたほうがいいでしょうか。あと、アンケートを配る時期ですが、前回の審議会に出ていた書類の中には3月4日頃からアンケートを5月何日まで取るという形で出ていたとは思いますが、3月のその1か月がいいかなと個人的に思っているのがあって、学校調査アンケートでも期間が延長されたりということが結構あったりしました。学校では、ミルメールというもので何回も促すということが今年度もあったかなと思うので、一応、3月いっぱいまでは目安としておいといて、でも延長があるという形だったら中旬でもいいのかなと思います。

(会長) どの程度集まればいいのかというところもあるかと思いますが、やはり広く御意見をいただきたいと思いますが、締切りは今年度ということであれば今年度中ということで締めたいかなというふうには思います。年度が変わるとまたバタバタするシクラスも変わったりとか、先生も変わったりとか、ご家庭でもお勤めがいろいろと移ったりとかすることがあるかと思いますが、できたら3月中ということはこの審議会の中で決定していただければ3月中にと締切りもその中で終える形にしたいと思いますけれども、いかがでしょうか。よろしいですか。それでは時期にいたしましては、今年度中にこのアンケートを取るということにさせていただきます。

対象ですけれども、今、お話にあった中学3年生についてはできれば御回答お願いしますというふうなお願いの形でもいいのではというところですけど、いかがでしょうか。

保護者の方と先生についてはどうでしょう。

(椋山委員) 保護者の方は大丈夫かどうか、それはもう保護者の方に聞いてみないと分からないですけれども、先ほど言いましたように春休みとかまで入れていただけると教員の

ほうは回答しやすいのではないかと考えています。それは学年にかかわらず、3月の25日以降というか。今年ですね、終業式が22日なので23日以降ですね。そこまではいろんなことがどの学年も学年末になって余裕がなくなっているのではないかなというふうに思っているのですが、実際になかなか春休みの期間中というのは年度の替わりのこともあってそんなにゆとりがあるかといったらあるわけでもないですが、学期中よりかは少し時間にゆとりがあって、ゆっくり考えられる時間もあるかなというふうには思っています。

(会長) ありがとうございます。内容的にはかなりいただいた資料を読ませていただきましたが、割と絞って、恐らく御記入いただくのに5分ぐらいあれば、最高でも10分ぐらいあれば書ける内容ではないかなというように思って作成したつもりではあるんですけど。

それでは、今のお話ですと全員を対象にしても大丈夫。中3の生徒は除いて悉皆ということではなくて御回答お願いしますというふうなことです。特に生徒さんのほうはこのA4・1枚に収まる程度みたいな形になっておりますので、小学校1年生から中学校3年生の児童生徒、保護者、それから学校の教員に対してお願いをするというふうなところでよろしいですか。

先ほどの事務局の話もありました記名にするか、無記名にするかというような課題なんですけれども、どうでしょう。私の経験からですと記名にすると回収率は比較的上がるけれども、本音が出ているかどうかというのは分からない。無記名にすると結構回収率は下がるけれども、割と本当のことを書いてくださるみたいなこともあるかと思いますが。記名なのか無記名なのかこれはどうでしょうか。オンラインの方も御意見ありましたらお願いしたいと思っておりますけれども。

(小出委員) 自由記述のところとかで本音が聞けたらいいなと思うので、無記名がいいかなと個人的に思います。

(会長) ほかの委員の皆様いかがですか。

(井村委員) 内容が今来たところでよく分かってないですが、もしも何か困っていることとかを記述式のところに何か書くような内容がもしもあるのを想定されているとしたら、記名式にしておいたら後でフォローができるのではないかなと思いますが、そのあたりは現場の先生たちはどんなふうに思うかでしょうか。

(内田委員) 先ほど学校にもいろんなアンケートが来ているという話がありましたが、学期に1回、生活アンケートというのも取ってまして、それはいじめ未然防止という意味でのアンケートで、うちの小学校では記名式にして、「困っていることがある」と書いたら話を聞くようになっているので、このアンケートで悩みを吐き出して解決というための

目的でなければ、私は無記名でいいかなとは思ってます。以上です。

(会長) アンケートの中ごろに書いてあるんですけど、児童生徒向けには学校の成績には関係ありませんよということであったりとか、それから個人の名前とかクラスとかそういった学校の名前が分からないように集計をした上で発表させていただきますというような、いわゆる個人情報等の保護に努めますということをお話について先生向けについてもそれから保護者向けについても書いてあって、枚方市の傾向としてどのような傾向があるのかということがここは把握できたらいいかなと私は思っていて、そこでやはり足りないということが出てきたときには、そこをやっぱり皆さんで共通で理解できるように進めていくということがこの支援教育充実審議会からの市に対してのお願いというような形で進めていくというふうになるのかなと思っています。お書きいただいてもお書きいただかなくても出していただけるのが大切だというふうに思いますが、今のお話ですと無記名でもよいのではないかという御意見が多いようですが、いかがですかね。オンラインの皆様、いかがでしょうか。廣井さんいかがですかね。先ほど御提案をいただいたところですが。

(廣井委員) アンケートの目的としてはやはり全体のニーズを取るという形なんで、個別のニーズについてはもちろんフォローというのは必要だと思うんですけども、このアンケートでそれを解決しようというものではないと思うので、一旦はこのアンケートに関しては無記名でいいのかなというふうに思いますし、例えばいじめとか例えばこういうところで苦しい子どもがいるとかいう数字が出たときはまたそれに対する対策委員みたいなものをいろいろ立ち上げたりということがあると思うので、そうするとその中からまたやっぱり拾い上げる案とかいろいろ出てくると思います。問題を見つける、個別の問題を解決するというよりは全体の問題を見つける目的のアンケートかなというふうに私は感じるので、無記名でいいかなと思います。以上です。

(会長) ありがとうございます。それでは、無記名、ネットで御回答をいただくというような形で進めていきたいと思っております。ありがとうございます。

続いて、内容ですが、いろいろ御提案とかもいただきましたけれども、今、児童生徒向け、それから保護者向け、それから教員向けというところでお読みいただいて御意見をいただけたらと思っておりますが、いかがでしょうか。

井村さんの御説明ですね、井村さんからも資料をいただいておりますので御説明をいただけたらというふうに思います。よろしくお願ひいたします。

(井村委員) 前回、多分自立のこととか自立に向けてとか社会参加に向けての教育をされていますか、という内容が入っていたと思うんですけども、そういう形で取るのであればちょっと私が思っている方向とは全く何か違うなと思ったので、メールのほうをさせていただきましたが、今日見させてもらったらすごいざらっとした内容になっているので、こういうアンケートであれば特になんかわざわざもっと踏み込んだ話にしなくてもいいかな

とは思っています。

現状と学校生活にちょっと困りごとがないとかそういう感じのことですよ。ちゃんと理解できているとかそういう感じにすごくさらっとした感じになっているので、これであればあんまり思うところというのはなくて、現状把握をちょっとだけ確認するためのアンケートですよ。ただ、私がお渡した資料っていうのは、今、学校における教育自体が何かこうしてあげなければとか、大人が子どもを指導するとか何かそういう価値観とか固定観念に今の枚方云々じゃなくてね、学校教育全体がそういう形になっていると思う。私は障害児の親というのがあります、福祉事業従事者をやっているというのもある。

もう一つは、その福祉事業所を立ち上げたっていうところで、私の周りに今いる人たちというのが、ほとんどの方が経営者の集まりになります。経営者サイドで言うと、今の日本の公の教育というのに疑問持っていない人というのが私の周りには100人、200人ぐらい、この4年ぐらいで事業立ち上げてから200人、300人ぐらいの人と出会ってきている。でも、そこで今の教育に疑問を持っていない人はいない。もう公立の学校に行かせないから自分で学校立ち上げるという人が何人も周りにいます。意識的な部分で、教育の現場の方たちも一気に変えるとすごく大変なことだし難しいと思いますが、でも、ある意味私はもう一気に今変えていかないといけない状況にあると思っている。

子どもたちは基礎的な学習とかをして基本的な学びを必要だって昭和な時代のときには皆さん思っていたと思いますが、今はチャレンジできる力とか、どんなふうにやりたいとか、どんなことをしたいとか、自分で発見したりとか、自分で学ぼうとしたりとか、何かできないことを人に頼む力とか、人に頼る力とか、何かそういうことのほうが大切になってきていて、私たち経営者の側で言えば雇用するときに必要とするのは結局そういう人なんです。学力が高い人は誰も求めていないです。昔の会社は知りませんが。でも昔の会社は若い人たちに敬遠されて、今どき昔ながらの会社のしきたりみたいなものがあるような会社というのは、若い人はだんだん行かなくなっている。今から就職とかされる方というのは、トップダウンではなく、社長がいてそのあと先輩とか上司とかと新入社員とか結構横並びになっているような会社が増えてきている。ですので、教えるとか教えられるというのはあったとしても指示されるというよりは、自分で考えて動けるような人が求められてきている。ですので、どうせこんなことやってもできないというよりは、できないことにどんどん果敢にチャレンジしていくような大人というのが必要になってきている社会です。それが多分今学校現場のほうだと感覚的に申し訳ないけどちょっと真逆な感じがある。先生たちがいる本当に申し訳ないですが。

(会長) 井村さんすみません、その話はありがたいですけど、アンケートについての御説明をお願いしたいと思います。

(井村委員) それに対するアンケートを私はさせてもらったんです。教育委員会の方たちには、学力テストや学力向上をめざすことについてはもうやめてほしいんです。アンケー

トと大分遠くなりますが、でも私の中ではつながっているんです。学力テスト、学力向上にとかいろんなしられる内容がこの間のアンケートやったなというのをすごく感じて。でも私がここの審議会のメンバーとして、前のアンケートを出すなら絶対嫌だなと思ったので、メールのほう送らせていただきました。すみません、長くて。

(会長) 非常に大切なお話だというふうに思います。アンケートの内容について事務局からも御提案いただきましたけれども、今、井村さんのお話からもあったように全員に取るというようなことで比較するというのを。例えば子どもと教員と保護者とあるいはそういった支援級に行かせる方とそうじゃない方と、そういう前回お話いただいたインクルーシブということを考えると、みんなが理解しながら進めていくといったようなことがすごく大切なのではないかなというところで、比較的共通の内容のあるアンケートというふうなことにいたしました。いかがでしょうか。具体的にこういうものも含めてほしいとか、あるいはこれは要らないとかですね、そういうのもありましたらお願いしたいと思いますが。

(小出委員) ちょっと質問もしたいですが、事務局のほうで作成していただいたアンケートで共通の関連した質問を最初のほうに入れていると思いますが、教員のほうを見ると子どもたちはどう感じているかを6まで聞いているかなと思います。この対象の子どもたちというのが、先生たちは学級でたくさん子どもたちを見ていると思いますが、おおむね楽しそうと思っても、1人2人は楽しくないと思う場合もあると思う。先生たちの回答は1回ですよ。となったときに、子どもから見たら先生は1人だけど、教員からは子どもが複数いるので意識調査をすることになってどう答えるのかなという心配は正直ありました。伝わるかちょっと難しいですが、ずれが出ると思うので、でもやっぱり自分のクラスでもみんな同じじゃないとは思っているので、おおむね楽しそうで楽しそうと選んでも何かうまく選べないんじゃないかなってということが正直思います。

(会長) 具体的にどうしたらいいか。

(小出委員) 全体的にこの教員のアンケートを見ていると、教員自身のことがあまり聞かれてないのではと思っていて、子どもがどう見えるかということと学校全体はどうかというところで、答える教員自身の状況はどこで聞くのだろうというのは疑問がありました。

(会長) そのずれが出てくるというのが一つこのアンケートの意味ではないかと思うところがありますし、学校アンケートというのが取られていて、毎年毎年、前期と後期とか、その中でももう少し突っ込んだ話を取られていてそれが多分PTAとかのところに公開されているというふうなことが今行われているだろうと思います。なので、ある程度共通のところでは先生の捉え方と子どもたちの捉え方、保護者の捉え方が違うのでやっぱり違うというふうなことが表れてくるというのがアンケートの一つの意味かというふうにも思うわ

けですが、何か抜本的にこのように変えたらもっとよくなるんじゃないかという御意見があったらいただきたいというふうに思います。

(井村委員) 保護者の立場で言うと、先生たちも毎日学校で楽しく過ごしてもらっているというのが安心につながります。そういう何か学校に職場はよい環境ですかとか、職場は楽しいですかみたいな学校は先生にとっても楽しいところですかとか。保護者も見るアンケートなので、ちょっとどういう表示の仕方がいいか思い浮かばないですけども、何か先生たちが学校に行くことに対してポジティブなのかネガティブなのかというのが見えるような何かあれば。もしもネガティブであれば、またそれも逆にやっぱり先生たちの職場をちょっとでもよくする方向も何か一緒に考えられたらいいかなと思います、駄目ですか。

(内田委員) 私たちもストレスチェックで同じようなことを年に2回聞かれていて、そちらが多分職場環境をよくするためのアンケートで、結局アンケートの目的につながってくるというか、「先生は学校に通うことが楽しいですか」と聞かれたときに、そんな日もあるし、そうでない日もあるし、自分だったらどこにつけるかなという「そう思う」になるだろうと思います。私自身が聞かれたときには。じゃあ、このまま「子どもたちは学校に通うこと楽しいと感じていると思いますか」と聞かれたら、いろんな子どもを思い浮かべて、「あの子は楽しいだろう」「あの子は楽しくないだろう」と思い浮かべ、「多分そう思う」に私ならチェックを入れるだろうと思いますながら見ていたので、そんなに大きく変わらないかな、どう聞かれても。Q1にしか答えてないですけども。

(会長) ピンポイントで聞くアンケートというのと全体の意識としてどの程度理解が進んでいるのかなというようにところで聞くほうが答えやすいというようなものがあるんじゃないかなとは思いますが。

例えば合理的配慮ということなんかも聞いていたりしますけれども、もうちょっと突き詰めて聞くとなかなか答えづらいということがあったりする。何となくは知っているけどみたいなどころであれば、そういった回答が多かったらもっと合理的配慮ということについての理解を進めていく必要があるだろうというのがこの審議会の中での提案として出せるようになっていくんじゃないかというようなことなんです。ですので、お聞きになりたい内容というのはたくさんあって、それはまたその支援学級であったり、そういったところで詳しい内容というところはあるんですけど、やっぱり学校の保護者の方、教員の方、それから生徒さんがその点についてどんな感じを持っているのかというところが一つこの審議会としてはまとめていけたら、そこから何か見えてくるものがあるのではないかなというところなんです。

(井村委員) 何度も申し訳ないんですけど、個別の教育支援計画について、保護者の立場から2種類聞くんですね。その子に対して、その子がどんなふうに1年後、半年後、こん

なふうにできるように、こんなふうはその子に頑張らせる的な指導計画を立てるという学校もあるのと、あともう一つが、私は支援学校のときに大阪府の研修と一緒に参加したことがあります。そのときには周りの先生がどんなふうに手だてを立てていくかという計画だよというのを聞きして。子どもをこんなふうに頑張らせるためにこういうふうにしてというのを何か現場では割と聞いていたなと思って。理解の違いが真逆だったのにはちょっと驚いたんです。先生たちがこんなふうに計画を立てていくんだというのを後で知って、それやったらいいなと思ったんですね。本当にこれが理解していると答えた人が全員、大阪府が研修しているほうの理解になっているのかどうかというのが。子どもが大きくなっているから大分離れているので、こういう意見はどうかと思うところもあるんですけど、それが理解できているかどうか。適切に活用していると思っている人と2種類あるんですよ。子どものために子どもにさせている人と先生たちが頑張ってやっているという認識と2種類あるので、その2種類をそのままの状態ですと回答したら困るなと思ったんですけど。

(会長) それはどう回答されるのかちょっと見えないところはあるんですけど、個別の指導計画と個別の教育支援計画は本日の案件2のほうでお話をするというようなことになっておりますので、ちょっとそちらのほうに委ねたいと思いますが、内容としてはどうですかね。お願いします。

(椋山委員) すみません、私もちょっとこれ聞き逃したのかもしれないですけども、児童生徒用のアンケートについては、本当に学校生活全般っていか学校生活についてのことを大まかに聞いているという感じがしますが、支援教育とかに関わって答えている生徒が支援学級に在籍しているのか、していないのかということはもう聞かないで、全体の児童生徒がどんなふうにいるのかということを知ることでよろしいのでしょうか。

もう一つ、これはちょっと気になるんですが、ほかのところにはほかの保護者用とそれから先生用のほうには性別を聞く欄がないんですけども、児童生徒用だけ性別を聞く欄があって、男子、女子、その他というふうに書いてありますけれども、その他というよりはもし性別を聞きたい、どうしても性別によって何か結果が変わってくるものがあるというのであれば、男子、女子、答えたくないというふうに選択肢をしないといけないのではないかなというふうに思います。

(会長) 当初は記名でということ考えていたところもあったので、児童生徒向けというのはある程度そこは限定しない形でのお答えというふうなことですけども、その辺については少し工夫をする必要があるかというふうにも思いますが、何年何組という回答をしてもらった方が間違いが出てくるのであればそういったところを見れたらというふうに思いますけど、何かいい方法がございますでしょうか。

(椋山委員) 学校によって支援学級の名前はいろいろつけておられると思いますので、例

えばひまわりというのも一つ、1年生のひまわりとか2年生のひまわりとかというような答えを一つしてもいいのかなというふうに、そしたら、通常の学級の子と支援学級に在籍の子の少し意識の違いは分かるのかもしれないですけども、そういうふうにする必要があるアンケートにしていきたいのかどうか、その目的をどのように考えているのかというところによるのかなというふうに思います。

(小出委員) 支援学級の名称が枚方市は本当に様々あるとあっていて、でも支援教育についてのアンケートをしたいなと思うのはありますが、学校アンケートと中身がほとんど一緒かなというのが正直あります。支援教育の審議会として出すアンケートとして今までの枚方市の支援教育の総括になるような意見が今まで言えてなかったところを吸い取るためのアンケートがいいなと思うので、選択肢じゃないと駄目だとしたら廣井委員が細かく、例えばで出してくださっているような聞き方でいいんじゃないかなと思いましたし、もし項目が多いということがあるならば、私が先ほど口頭でしか言ってないんですけど、通常の学級での配慮だったりとか思いとかあと支援学級や通級の支援教育について、枚方市の支援教育についてというのを自由記述で求めるような内容がいいなとは思いました。子どもに関してはちょっと難しいですが、支援教育にもうちょっと関連した内容に寄ったらいいなとは思っています。

(会長) できたら内容も詰めたいので、具体的にどの辺をどのようにしたらいいんだろうという御意見をいただけると非常にありがたいのですが。

(野口委員) すみません、よろしいでしょうか。野口です。ちょっとやっぱお聞きしてる中で何か目的をもうちょっと絞ったほうがいいのかという感じはすごくしています。何かすごいざっくりとしているので、何か結果もざっくりとした内容が出てくるのかなというところはあるので、そういう意味では今、小出委員が仰っていたように支援学級も含めた支援教育の在り方として、本当にこれまでの枚方市がやってきたところで継承すべきところと改善すべきところをやっぱり明らかにしていくということがこのアンケートの目的なのではないのかなというふうに思います。そういう意味ではそういったところにもうちょっと寄せた内容がいいのではないかなと思って。例えば子ども向けで言うと、無記名でやる場合は先ほどいただいたようにやっぱり在籍している学級というのは明らかにすべきだと。記述していただかないとどこの話をしてるか分からないので、それをしていたくというのと、やっぱり支援学級の子もかなり基本的には通常の学級にいることが枚方市は多いと思うので、やっぱり通常の学級にいるときに楽しいかが分かるということ、あとは支援学級在籍で、別室で授業を受けている時間については別々で聞く必要があるなというふうに思います。例えば廣井委員も通常の学級ではどうかというところと支援学級ではどうかというところの在籍別で聞かれる提案をされていると思いますが、ちょっと煩雑になるかもしれませんが、特に支援学級に在籍している子や通級に行っている子に関しては、プラスアルファで聞いていく必要があるのかなと思いました。

それでいうと保護者向けも先生向けも同じで、通常の学級において分かりやすいかとか楽しんで行っているかとかを聞けるといいなと思いますし、先生についても通常の学級においてどんな工夫を、例えばみんなが分かりやすい工夫をしてるか、したいけどできないのかとか、そういう前回私が提案した内容にもつながってきます。やっぱり通常の学級の授業の在り方が本当に今のままでいいのかなとか、多様な子どもがいることを前提とした学級づくりができてきているのかなというところを何か確かめられるといいのかなというふうに思うので、そういったところ。あとは支援級と通常の学級との連携だったり、その部分が果たして十分なのかなとか、そういう幾つかの仮説が私たちとして既にあるはずなので、何かその仮説をもとにそれを検証するような何かアンケートにしていくとより優先順位が私たちとして明らかにしたいことがたくさん聞ければ聞けたほうがいいと思いますが大変なので、私たちとして何を優先的に聞きたいのだろう、何を優先的に明らかにしたいんだっけみたいところは、何かみんなで共通理解が図れるといいのかなと思いました。

それでいうと私としては先ほどお伝えしたような通常の学級において今どれだけ工夫がされているのか、それが果たして本当に十分なのかかというところはみんなに聞けるといいなというところとか、例えばそういったことですね。支援学級の別室で今学んでるのが、全ての子どもにとってそれが今すごくいいのかどうかとか、何か幾つかの仮説というのを踏まえた上で、何か項目を決めていけるとより焦点を絞って私たちとしても審議会の案を出す私たちとしての報告をするときに、より焦点が絞った提案というのが何かできるのではないのかなと思いました。

そうなったときに、学校の先生たち自身もどういふサポートが今得られているサポートが果たして十分なのか。巡回指導とかセンター的機能とか使っていると思いますが、何かそういうものが十分に今使われているのかとか、もっと何かほしいサポート、先生としてどういふサポートがいいのかみたいなのは、やっぱり支援教育ならではの質問だと思うのでそういう部分については、先生自身についても聞いてもいいのかなというふうに思ったところです。以上です。

(会長) ありがとうございます。その支援学級というところを明らかにしたほうがいいのかそうではないほうがいいのかというようにところもちょっと考えました。皆さんは、その支援学級というところについてを教員についても、それから保護者についても、それから子どもたちについても。子どもたちについては支援学級のお子さんと通常の学級に在籍しているお子さんと別に作ることでか。支援学級のお子さんが通常の学級に行ってる時どう感じますかというような内容であるとかというようなものを支援学級のお子さんについては加えてアンケートを作ったほうがいいんじゃないかと。野口委員、すみません、原案つくって見ていただけますか。

(野口委員) 私によければ全然作りますよ。

(会長) 今の案を出させていただいたものの中に例えば支援学級のお子さんとそれから通

常の学級に在籍しているお子さん、あと通級指導教室はどうしようかなというところもありますが、そういったところでの過ごし方というところについての違いを見ていったほうがよいのではないかと。保護者等についても教員についても、支援学級に通っているお子さんのことについて聞いたほうがよいのではないかとというような御意見だったかというふうに思いますが、ほかの委員の皆さんどうですかね。

(小出委員) 通常学級と支援学級のアンケートを、例えば、子どもを分けて検証したいとなったときに、例えば質問は同じだけど、QRコードは別で最初の説明のところ支援学級の子だったら、例えば、何年何組と別の教室で学んでいる子対象というふうに一応書いておく。質問の項目は例えば全員共通でもQRコードで分けて答えにくさをちょっと軽減するというかやっぱり支援学級と言いつつしていないという問題点、あと言い方も本当にたくさんあって3つ、4つならいいと思うんですけどたくさん聞いたので、それがいいのかなとは思ったりはしました。

(会長) システムがちょっと分かんない。そういうことができるんですか。アンケートの内容で同じこと書いて聞くということは可能ということですか。

(小出委員) 配付するときに支援学級の子だけQRコードが別のもっていうのと、ミルメールで例えば促すときでも支援学級の子だけをきつと別で区切ってメールを送ることは一応可能ではあると思いますが、学校側は正直ややこしいかなとも思います。でも、聞きたいんだったらそれもありなのかなと、お手紙自体は分けられるのではないのでしょうか。

(井村委員) 支援学級在籍の人は多分その支援学級のときと通常学級のときとまた回答が違ったりする可能性があると思う。支援学級在籍の人とかは支援学級の話を書くアンケートにするんですか。それも聞くということですか。その2つとも聞くと感じですかね。逆に言えばもうどちらも通常学級でどうかというアンケートだけでも今回いいんじゃないのかなってちょっと思ったりはします。だから支援学級在籍の方とかは通級教室の在籍の方とかは逆に通常学級においてのアンケートとして答えてくださいというふうにするというのはどうですかね。

(会長) 今、井村委員の御質問は、名前とか記名がないと分けられないんじゃないかというふうなところだったわけですけど、そういった方法というのはあるのでしょうか。

何かしらの質問項目を設けてチェックしていただくとかというようなことをお願いするのとかどうかというところですよ。お名前書いていただければ大体この子は支援学級なんだなというのが分かってというのがあると思いますが、無記名ということになったので、その点をどうしたらいいのかというのが一つ。質問を変えるというような意見もあれば。

(椛山委員) この集約は学校でするんですか。事務局ですよ。だから名前を書いたとしても、それを多くの回答の中から支援の子を抜き出すというのは大変なことじゃないかなと思います。なので、もし支援に在籍している子の意識として知りたいということがあるのであれば、今この形だったらざっくりとした枚方市内の子どもたちがどんなふうにいるかっていうことしか分からないと思うので、でもその中でも支援に在籍している子と支援に在籍していない子の意識の違いみたいなのも知りたいということであれば、先ほど言ったように在籍のところに支援というのをつけるか、ただ、ひまわりとか本当にわかばとかいろいろ名前があるので、それが全部フォローし切れないとなれば、例えば1つ質問のところに、先ほど小出さんがおっしゃったように、あなたは自分のクラスのほかにほかのところで、学校の中で学んでいる場所がありますかみたいな項目を1個つけておくと、その子は支援かなというふうには思えますね。もしかしたら、別室指導の子がいるかもしれないですけども、大体においてはその子は支援学級で学んでいる時間がある子どもだなというのは分かるかもしれないです。中学生ぐらいになったらもう支援学級にというのを一つ入れても分かるかもしれないですけども、小学校だとやっぱりなかなか支援学級というのが分からないかもしれない。

(会長) ほかのクラスで学んでいること、勉強することはありますか。例えば、ひまわり学級とか何とか学級などみたいなところの、はいとかいいえとかってようなチェックを入れていただければ、そこである程度分かるのではないかというふうなところですね。

(椛山委員) この項目で聞いた中でその子が学校楽しいと思っているのかとか、困りごとがあるのかとか相談ができるのかということでは分かるのではないかなというふうに思います。

(会長) いろいろ紆余曲折しておりますけども、お子様のところにそういった属性、お子さんの属性のところにそういった項目を一つ設けて、児童生徒さんが通常の学級だけではなくてほかの学びの場を持っているかどうかというようなことについて聞くというようなアイデアをいただきましたけれども、そういったことでよろしいでしょうか。

(井村委員) すみません、3番の学校の授業が分かりやすいと感じていますかという部分が、例えば通常の学級分りにくいけど支援学級分りやすいとか、実はその逆もあり得る場合があったりすると思いますが、ここは何かちょっとそう思ったんですけど、どんな感じですかね。通常の学級は分りにくいけど支援学級分りやすいとか、支援学級のほうが何か授業がちょっと何か同じことばかりさせられていてしんどいとか、何かそういう話とかがあるので。

(小出委員) 学校アンケートとまた別に授業アンケートがあって、先生ごとにアンケートを取るようになっていて、クラス担任以外にも音楽の専科だったり理科の専科とかで、習

字の専科とかでも分けて聞くのは一応あります。

(会長) 多分学校とかクラスは取っていてそれはファカルティ・ディベロップメントというか、先生に直接自分の授業をどうするのかなというところに行くと思うんですけど、これは全体的にどう感じてるのかなというふうなところなので、今お話をいただいたのと感じていますかというよりは、感じるがありますかとか何かそういった聞き方の語尾を修正することである程度分かるかなというふうにも思うところはありますが。

(小出委員) 話変わりますが、先ほど野口委員が仰ってくださった項目を絞るというか、通常の学級に焦点を当てるとかで、どういう項目がいいかというのも皆さんお聞きしたいのですが、お願いします。個人的に教員の先生のアンケートで、できているかできてないか、学校ができているかできていないかの、何かチェックリストみたいにはなってほしくないなと思っています。子どもとか保護者と同じように困っていることとかどうするほうがいいと思っているのかとかそういう意見が聞けたらなとは思っていますが、項目に関して意見が聞けたら教員に限らず。

(会長) 何か御意見がありましたらお願いしたいということですけども、自由記述のところでもどれぐらい書いていただくのかというのも一つはあるのかなとは思いますが、自由記述はなかなかお書きいただけないケースも結構あるというのは事実だとは思いますが、チェックは結構していただけるので、何かいい質問として聞き方があればというふうなところになるかと思いますが。

(廣井委員) お話してもいいですか。

(会長) お願いします。

(廣井委員) 通常の学級の在り方をどうしていったらいいかというところに焦点を当てるということだったので、私が書いた案はできるだけそういうふうと考えてつくったつもりで、具体的にどういう場面がしんどいのかとかそういうのを項目としては入れているようにしています。

例えば発表とかそういうのがあるととてもしんどい子とかもきつっているし、あと運動会、遠足がしんどいとかがいろいろあると思いますが、そういうふうにしんどいと感じる場面とか、あと逆に授業でこういう授業は楽しいとかタブレットは使っていたら楽しいとか、あと実習学習みたいなやつが楽しいとか、そういうのも選べるようにすればふだん言語化とか意識とかしてなくてもこれはそうだなみたいな感じでマルをつけたりとかしやすいのかなと思ったので、そのように項目を一応考えました。素人なので思いつく例がちよっと限られてはいるんですけど、そういう感じで項目は作りました。それに対して皆さんがどう感じられるかというか、そこまでしなくてもいいんじゃないかと思う人もいる

と思いますし、もっとういようなところも聞いたほうがいいんじゃないかっていう意見もきっとおありかと思うので、その辺を作った側としても聞いてみたいと思います。以上です。

(会長) ありがとうございます。御意見がありましたのでお伺いしたいと思います。どういった内容を、もう少し具体的に聞いたほうがいいんじゃないかという質問ですがいかがでしょうか。

(野口委員) よろしいですか。私は廣井委員の作っていただいた項目はすごく具体的でいいなというふうに思います。これを何かベースにしていっても、子ども向けと保護者向けですね。先生向けは見れていないですが。

(廣井委員) 先生向けはちょっと作る時間が間に合ってなくて、2つしかちょっと作れてないので、すみません。

(野口委員) これをベースにさせていただいてもいいのかなというふうに思いましたが、皆さんどうですか。

(会長) ありがとうございます。具体的にはどこのあたりになりますか。

(野口委員) 全体的に通常の学級において、通常の学級の子どもも含めてまず過ごしやすさがどうかというところを聞かれていて、環境整備がされているかどうかで授業の内容はどうか、先生の対応はどうかっていうふうに分けてくださっていると思いますが。

(会長) 通常の学級にいるとき先生が付き添ってくれていますかとかということですかね。

(野口委員) それは多分支援学級のところだと思いますが。

(会長) 通常学級の過ごしやすさというところですか。①のところですかね。

(野口委員) そうですね。この整理の仕方はすごく分かりやすくなって思いましたが、どうですか。

(会長) 学校について嫌だ、しんどいと話すことありますかという、学校への行き渋り不登校がありますか。これは保護者ですかね。お子様に聞くとするところにありますか。

(廣井委員) 子ども向けのところですよ。子ども向けのところは何かいただいた記述の

7ページです。

子ども向けには楽しいと感じていますか、とても楽しいか楽しくないか普通かみたいな感じで聞いて、嫌だと感じることもあるかないかを聞いて、ある人はどういうことがしんどいですかみたいな項目があって、授業なのか給食なのか運動会なのか遠足なのかとかクラスの友達とそもそも一緒にいるのが嫌とか、こういうのを入れました。あとクラブが嫌だとか、担任の先生が嫌だとか話すのが嫌だとか、そういうのも入れて当てはまるものは全部つけてくださいみたいな感じにしていますね。そういうことがある場合に誰に相談しているかというのも聞くように項目としては作りました。

(会長) 総意ですので、嫌なこととかしんどいことというのを聞くという内容を含めるといことで委員の皆様よろしいでしょうか。

私個人の意見からすると子ども自身が嫌だ、しんどいということを表に出してしまうとか、そこを自分で否定してしまうのを僕は避けるほうなんです。そこは、このことを嫌だって書きちゃうと、「私は、これは嫌だ。」というふうにすごく強く感じてしまったりすることがあるので、あまりそういう内容は聞かないようにはしている。それは委員の総意ですので委員の皆様がそれを聞いたほうがいいのかということであればそういった内容も含めましょうかということですが。

(野口委員) 聞き方は別に変えてもいいと思いますけどね。例えばもっと学校でこういうふうにしてほしいと思うことはありますかみたいな中で、選択肢で、授業とか遠足とか学校に何かもっと変えてほしいところみたいな聞き方とかでもいいかもしれないですね。

多分何を知りたいかという表現の仕方と多分分けて考えないと、まずは私たちが何を知りたいのかというのを明らかにして、その上でそれをどういうふうに表現して、アンケートで聞くかみたいなものと多分2段階あると思うので、通常の学級で改善すべき点みたいなのは何か聞けるといいのかなというふうに私は。聞き方はさておき、何か聞けるといいのかなというふうに思いました。

(廣井委員) 補足すると私も多分意図的にはそういうことで改善したいところを聞きたいと思ったんですけど、言い方がどう言ったら子どもに分かりやすいかなと思ったところで嫌とかしんどいと思うことはあると聞いた方が分かりやすいかなと思ったのでそういう書き方をしただけで、その書き方がベストとは思っていないので、何かそういう今、野口委員さんがおっしゃったようなもっとこうしてほしいことありますかみたいな聞き方のほうがソフトというか子どもにはもしかしたらいいのかもしれないなとは思っています。

(野口委員) 何か多分まずは私たちが何を明らかにしたいのかということ、何を知りたいのかというところがここで合意形成ができないと難しいのかなというふうに思ったので、そういう意味では何を聞くのかという部分について子どもに聞く内容として先ほど廣井委員

が作ってくださったのをちょっとベースにして、何か考えていってもいいのかなっていうふうに思いましたね。

(会長) ちょっとスタートラインに戻った感じですけど、もう一度質問内容を考えていく必要があるんじゃないかっていうところですかね。そうすると3月はちょっと難しくなってしまうというのが出てくると思いますが、よろしいですかね。年度明けてからというふうなことでもう一度質問の内容を吟味してそこで年度明けになってしまうだろうと。次回2月20日あたりまでに御意見をいただきつつの質問内容を考えていってまたもう一度検討するというような流れになってくるかと思しますので。ということになるかと思いますが、よろしいですか、委員の皆様。

(柏木委員) よろしいですか。野口委員が言われたように、何を枚方支援教育充実審議会でも何を明らかにしたいかっていうことを決めて、もう一度吟味したらいいかなと思います。今、結局何が聞きたいか、統一が図れてないような気がするので、支援教育を充実させるためにどういうことが必要なのか、全体的なことを明らかにしようとしているのか、そこによってかなり意見がばらばらなので、この審議会として何を明らかにするというのを統一することは今、今日やったほうがいいんじゃないかと思はすけれども、いかがでしょうか。

(会長) ありがとうございます。保護者向けのところはかなり支援教育についてある程度聞いている部分があるかと思はすが、特に児童生徒向けについて、児童生徒向けを行うかどうかということも含めてだとは思はすが、どのようなことを明らかにしていったらよいのかというようなことについて、ざっくりとしたものではなくてもっとピンポイントで聞いていったほうがよいのではないかという御意見もありますし、その辺についてちょっと議論をしていけたらと思はすので御意見をください。

(井村委員) すみません何度も。私自身はこのアンケートをどうするかという議論にあまり時間使うのも何かもったいない気がしてまして。廣井委員の案も細かくてすごく分かりやすくていいなと思はたのですけど、でもここに時間かけるよりは多分突き詰めていけば個人個人思いが違はるので、それを拾はというのはアンケートだけでは難しいと思はすし、取りあえずまずざっくりで私はいいなと思はしています。あの、私の意見です、はい。

(小寺委員) よろしいでしょうか。

(会長) お願いします。

(小寺委員) 今回のアンケートに関しては、枚方市がめざしておられる自立した学びができる学校環境の整備ということになると思はすが、あれもこれも大事やと思はすのですけ

どもかなり学校教育の中の連携みたいなところに終始しているかなという感じがあります。私は今、各市で地域福祉計画というものを作っていてそこに参画していますが、その中ではやはり「地域」というのがキーワードになっている。ですから子どもたちが生きる場というのが学校も大事なんですけども、地域も大事だと。地域が今、特に子育てであるとか防災とかがかなり今話題になっていますが、それとか生活困窮者の方に対する子ども食堂であるとかそういう子どもが寄れる場づくりみたいなところはかなり活発にいろんなところでやられて、何かそういう中で学校の整備というか学校をよりよくしていくということは大事だと思います。それはある一定期間、一定達成できる見通しが立てられたら、次は地域の中で子どもがどう生きていくかというところをテーマにした取組をやっていたきたいなという感じがいたします。地域の中で子どもたちが生きていくためにどうしたらいいかということで、校区で福祉委員会というのがつくられていますし、民生委員、児童委員さんとか自治会とか様々なレベルで子どもを巻き込んだ地域づくりをやっておられますので、何かそこに学校が対応できるこうしていくという、そういうような取組もできればこの委員会の中で議論していただければ、ありがたいなというふうには思います。以上です。

(会長) ありがとうございます。そのほかに御意見ありましたら、お願いしたいと思いますが。

(牧村委員) すみません。今日はちょっとオンラインのほうで参加させてもらっています。ちょっと水を差すようで申し訳ないんですけど、これだけ議論して、最終的に着地点という部分で、実際教育委員会さんのほうとかはどんな形で考えてはるのかなと、今こうやって皆さん忙しい時間集まっていたいて、いろんな案を出したりいろいろしますが、結局この着地点はどうなるのかなと。最終的に教員不足だ、できませんで終わるのであれば、これだけの議論するのも時間の無駄かなという部分も考えています。その辺、実際着地点のことも考えながら進んでいかないと意味のない会議になってしまっはいけないかなとは思っています。実際、審議会のほうでいろいろアンケートをとったりいろんなことをしても、結局この会議の中だけで終わってしまうのであれば無駄かなという部分もあります。現時点で着地点なんかね、実際どこかいうのも分からないと思いますが、ただその辺の部分、これだけのいろんな部分が出た中でどう精査されるのかなというふうな部分が、ちょっとはてなという感じかなと思いました。以上です。すみません。

(会長) ありがとうございます。渡邊委員はどうでしょうか。

(渡邊委員) 渡邊です。私もちょっとこの間、自分の都合で後半出られていないっていうのもありますが、前回までの議論を聞いている中で、野口委員が言われていたように、例えばモデル校を指定して実践してみましようという何らかの提言を審議会として出すのかしらというようなイメージで聞いていましたが、そのためのアンケートという理解でいい

ですかね。そこまでは話はいいないけれどももというところでしょうか。

(会長) モデル校とは出ていましたけども、モデル校を選定するとかということではなくてその学校関係している児童生徒、それから保護者それから先生方がこの支援教育に関する意識というのがどのような意識を持ってらっしゃるのかっていうふうなことについての調査を行いたいというようなことです。

ですので、保護者とそれから先生のアンケートの中にはある程度支援教育の内容ということについての理解であるとか、それを啓発するような動きであるとかということについての質問項目を設けているかというふうに考えていますが、特に子どもたちの場合は、割とぼやっと聞いているというところもあって、その中でいろいろなニーズであるとかというふうなことについては、それほど深くは聞いていないというような現状があると。その部分をどうしていったらいいのかなというところですね。

(渡邊委員) すみません。アンケートの目的としては、皆さんの認識を聞いてそれを教育委員会にこんな形ですよということをお示しするというのが目的にということですか。

(会長) そうですね、それを目的にしたいというふうには思っているところです。もちろんアンケートの内容の中でモデル校を決めて進めていくということに関しては、理解啓発をどう進めていったらいいのかということにも活用できるかなと考えているところです。アンケートの中で非常に違いが出てきているところとか。

(渡邊委員) 審議会として何らか提言をするということではないんですかね。最終的に審議会の終わり方というところかなと、委員が言われていたのもそういう意味かなということと、思っておるんですけども、広く意見をお示しして審議会としての役割は果たしたということになるんでしょうか。

(会長) 一つはアンケートを取っていくということ、意識を知っていくということと、あともう一つは案件2というところで挙げられていた前回出てきていた個別の指導計画、個別の教育支援計画というものの活用の在り方というようなこと等に関しては、今日お話はなかなかちょっと難しい状況になってきているわけですけども、それが基本的には個に対応した教育であるとか支援を行っていく上でのベースになるものであるもので、そういったものの活用をどのように進めていっているのかというふうなことについて、モデル校も含めながら考えていくといったような道筋をしていくといわゆるこの審議会が目標にしている支援教育の充実っていうことにつながっていくのではないかっていう全体的なところを考えていくというところ、それから個別の教育支援計画、個別の指導計画というような、その切り口という両面から捉えていって見たらどうかといったようなことを考えているというようなことです。

(渡邊委員) ありがとうございます。広く皆さんの認識を集約するというのであればある程度具体的に聞いていったほうがいいのかというふうには感じています。ありがとうございます。

(小出委員) このアンケートは実態調査というふうに書いてたかなと思うんですけど、意識調査ってことですか。

子どもが楽しくないとなって、先生は楽しそうに見えてますけど、何か子どもは思ったより楽しそうじゃないですよという結果が出たときに、先生のせいみたいに聞こえないかなというのも心配していて、楽しくない理由ってそれこそ廣井委員が出してくださっていたみたいに、もともと運動会が苦手だとか、友達関係がうまくいかないとかいろんな理由があると思います。学校現場でよりよくしていくために今、学校の状況がどうなのかというのが聞きたいとは思っていましたが、意識だとそれがちょっと分からないんじゃないかなと思っていて、この審議会でも、ちょっとここからは議事録に本当は残してほしくないんですけど、審議会でも事前に資料とかもやっぱり準備の期間が短い分やっぱりぎりぎりまで目を通す時間がなかったりとかもすると思うんですけど、でもそれって担当の先生がほかの仕事もすごいたくさん抱えていて限界があるからだと思います。会議録も本当だったらもしかしたら前回までの内容も次の会議が始まる前には読み切りたいとかも思うんですけど、でも本当に審議会担当の先生とはいえほかの仕事も本当にたくさん抱えながらやっていて限界がある。どれだけ残業しても無理というところがあると思う。学校現場の先生も同じで、本当は個別指導の計画とかももうちょっとちゃんと考えてやりたいと思っても、ほかの締め切りの仕事がたくさんあってできないとか、環境要因でできないこともたくさんあると思うので、意識だけ聞かれても何かそれがよりよくするほうにながっていくのかというのは正直思いました。

(会長) 意識調査をどう捉えているのかということなんですけどね、意識を聞いていくということがアンケートを行う目的ということであれば、まずは妥当なラインなのかなというところではあるかなとは思いますが、もうちょっと具体的に聞くということですかね。という内容に、どこが大変だという、運動会が大変だとか、授業で言えば算数がとか国語であるとかというようなところで、そういう細かいところに言及をしていくということまでこの審議会でのアンケートで必要かどうかということの御判断をいただけたらというふうに思いますが、どうでしょうか。時間も時間なんですけどね。

(事務局) 失礼いたします。事務局です。たくさん御意見をいただきましてありがとうございました。

今、いただいている意見の中で、牧村委員のところからいただいた意見でアンケートについてという議論をずっとやっても仕方ないよねというふうな御意見があったと思うんですけども、このアンケートについての必要性というところについて、どういうことを聞きたいということが今、この2時間の議論の中でもいろいろ出ていたとは思いますが

が、このことだけを話していても意味がないというところの結論だったと思います。ですので、今後様々な観点で議論を進めていただくような予定にはしていますが、その中で、ここの項目については聞きたいよねということが委員の方々の中できっちりと固まった段階でここについてはアンケートで聞いていきましょう、この議論についてはここの意見について聞いていましょうということが出てきて、ある程度一定固まったところでこの全体で聞いていましょうとなったときにアンケートを作り始めるというふうなことでしたらどうかと感じていますが、牧村委員そのような印象であったでしょうか。

(牧村委員) そうですね、その部分もありますね。

(会長) ありがとうございます。そうすると、アンケートがありきではなくてどのような内容を聞くべきなのかというようなことについて絞り込んでからアンケートを実施するというようなことでよろしいでしょうか。これですとちょっとぼやけてしまっている、何がニーズなのかが分からないということであればピンポイントある程度もうちょっと絞った中で枚方市の支援教育充実審議会としての意見を広く求めるといったような形のところに落ち着かせていただくというようなことでお話合いをしてみましたが、3月の実施というのは基本的には難しいであろうというようなことで、本日の審議会のアンケートに関してのまとめということにさせていただいてよろしいでしょうか。

(事務局) 失礼いたします。事務局のほうでは議論を進めながらこちらのほうでこれまでの議論検討というふうなところでまとめさせていただきたいと思っております。その議論がある程度まとまったところで事務局の方から会長、委員の方々の意見を伺いながら、このタイミングでアンケートをしてはどうでしょうかというふうな形で御提案させていただきたいと思っておりますので、いかがでしょうか。

(会長) よろしいですか。もう少し子どもたちのどこが困っているのかであったり、通常の学級の中での過ごし方、それから支援級の中での過ごし方の違いとかそういった御意見もいただいております。そういったところでの児童生徒向けのアンケートそれから先生向けのアンケート、それから保護者向けのアンケートといったようなところでのもう少し内容を吟味して、目的を吟味して進めていくといったようなところでいろんな御意見をいただいております。

まず、案件1というところはそういうところでございますけど、案件2、ちょっと時間がもうないというようなことで、今日は個別の教育支援計画それから個別の指導計画というようなものの枚方市で取り組まれているものについても御紹介いただいて、その活用の在り方ということについても皆様からの御検討いただいて、それが将来的にモデル校とかというふうなところの中での取組につながっていくというようなことになるのかと考えておりましたけれども、これは次回というような形にさせていただくということよろしいですか。御説明だけお願いいたします。

(事務局) 失礼いたします。前回野口委員の御提案、解決すべき点2とございました通常の学級における授業づくり、学級経営を障害のある子どもがいることを前提としたものに変革することについてというところについて課題が残っているのではないかという部分がありました。

こちらについて資料で御提案いただきました特別支援教育構想というものを検討していく上で、通常の学級との連携として最も必要な議論となるものであると思いますので、まずは個別の教育支援計画を踏まえた指導と支援の観点から、今回は枚方市が活用している個別の教育支援計画の様式について共通理解というところで資料をつくらせていただきました。

御説明をさしあげます。まず個別の教育支援計画についてというところすけれども、参考資料1でございます。

参考資料1では枚方市が活用している様式となります。まずは共通理解として御説明さしあげますと、個別の教育支援計画は、障害のある児童生徒の一人一人のニーズを正確に把握し、教育の視点から適切に対応していくという考えのもと、長期的な視点で乳幼児期から学校卒業後までを通じて一貫して的確な教育支援を行うことを目的とするものです。ゆえに、教育的支援という観点から教育のみならず福祉、医療、労働等の様々な側面から取組が必要であり、関係機関との連携を目的としたものと言えますので、常に更新されていくものです。

次に参考資料4から6になります。こちらについては、個別の指導計画についてです。

こちらは枚方市として様式は定まったものではないですけれども、個別の指導計画については、個々の子どもの教育課程を具現化したもので、幼稚園、小中学校で具体的な指導に関する目標と手だてを記載する計画であり、1年単位を目標とするものが基本となっております。

児童生徒に対して学校や担任が行う教育課程について、より具体的な記載となるものです。どちらも大切な資料ですけれども、つくることが目的ではなく、関係機関や学校現場が児童生徒の実態を捉えた上で、教育現場で有効に活用する必要があるというふうに捉えておりますので、共通理解を図っていただくとありがたいです。

まず、参考資料1の枚方市版個別の教育支援計画については、こちらは文部科学省が示す参考様式をもとに、枚方市のワーキングチームで検討していただいたものになります。

先ほど説明させていただいたとおりではございますが、児童生徒の障害の状況、アセスメントを詳細に記載した上で、関係機関との連携、本人、保護者の希望、支援の目標、合理的配慮を含む支援の内容、その評価というふうな記載内容となっております。

こちらについて、次回、御意見等検討していただけたらというふうに思っておりますので、次回までに御意見をお考えいただければというふうに思っております。以上です。

(会長) ありがとうございます。個別の指導計画、それから個別の教育支援計画、学校現

場で子どもたち一人一人ですね、個別最適化というのが最近使われますけれども、指導を行っていく上でのベースになるものでございます。そういったものをどう活用していくのかというようなことというのが一つ、学校現場では他の自治体でもかなり課題になっているというところがありますので、そういったところについての皆様からの御意見等をいただきながらということが、次回の会議の中心になってくるかというふうに思います。

あるいはまた、アンケートの内容についても、少し絞り込めましたら皆様と話し合う機会というのをもっていきたいというふうに考えております。

以上でございますが、本日何か御連絡、御意見等がある委員の皆様いらっしゃいますでしょうか。よろしいですか。

それでは、なかなか議事の進行うまくできずに大変申し訳ないと思っておりますけれども、以上で令和5年度の第6回枚方市支援教育充実審議会を閉じさせていただきます。皆様、どうもありがとうございました。

《閉会》